http://decfamily.p1.bindsite.jp/2018/

We 35R

No.395　18/06/21

あと一週間

　昨日は星陵会館の練習ではじめて２曲通して聞いたが、声量はまずまずだし、表情も豊かで、２年生としてならかなりイイ出来であると言えそうだが、我々は２年生ではないのだし、目指しているところも違うので、練習後に感想を求められた際には、思ったことを正直に申し上げた。

　まず、ピアノについては、星陵会館では歌唱とのバランスもよく、キレイに響いていたと思う。合唱でピアノが目立つのはよくないからか、講評の中でピアノがほめられる場合は、テクニック＋合唱とのバランスだろう。テクニックの部分は私には分からないが、これからバッヘが仕上げてくれることだろう。

　一方、指揮については、これからさらに磨きをかけてほしいと思った。派手なパフォーマンスをする必要はないが、もう少し、「クラス全体をコントロールしている感」がほしいという印象であった。曲の始まりや終わり、そして、演奏中の一体感を醸し出す起点は、やはり指揮者だと思うので、これからの練習の中で、さらに全員との信頼感を高めて、それを当日披露してほしい。同時に、これは歌っている側の姿勢の問題でもあるのだから、指揮者中心に動ける体制をつくるように協力しよう。

　歌については、細かい部分はおくとして、全体的に披露できる状態に近づいているのは確かだろう。ただ、今回は考査後の練習期間が長く、どのクラスもしっかり仕上げてくるだろうことを思うと、細かい部分まで行き届いた演奏をしたいものだ。これから指揮者や●●さん、●●さん、●●くん、さらに合唱委員の人を中心に、できるだけ余計な要素を切り取り、必要な要素を膨らませて、美しいフォルムが完成するよう努力しよう。

　聞いていて一番気になったのは、最初の歌も二曲目も、ほぼ同じように聞こえてくることである。最初の歌は、言ってみればお祭り的な歌なのだから、シャキシャキした歯切れの良い、かつ威勢の良さが前面に出て来るべきだろう。感想を述べた際には、例えば浅草三社祭の衣装を身にまとっているように歌おうと例えたが、そんな雰囲気を感じさせるような、明るく楽しく、躍動感のある演奏がふさわしいのではないか。

　一方、二曲目は、空を風が滔滔とわたってゆくように、大地を川が滔滔と流れてゆくように、なめらかで美しく展開してゆく旋律を基本として、それが「失神」の鮮やかさにキレでより一層引き立つ曲であろう。いってみれば、一曲目が歯切れの良い漢文の文体、二曲目は抒情的な源氏物語の文体といったところか（…言い過ぎか・笑）

　といわけで、その違いの面白さ、組み合わせの妙が生きる演奏を工夫したい。だから、特に二曲目の出だしは大切だ。一曲目でリズミカルな楽しい雰囲気を盛り上げた後、指揮者が変わると共に舞台の上の雰囲気もガラッと一変するような演出、つまり、全員の態度・表情が一変して、まったく新しい世界が歌い出されるような感じになることを期待したいところだ。

　何度も書いたが、一生で合唱をするのもこれが最後という人も多いだろう。この合唱の思い出を、生涯大切にしてゆくことができるようなパフォーマンスを目指したいものだ